

府内市町村の動き



岸和田市

- 岸和田市は、「岸和田市廃棄物統計書」を作成した。

これは、ごみの種別による過去5年間の数値や、一般廃棄物の処理経費、市民が分別している資源ごみの行方などを掲載したものの。

市民の環境活動等を掲載するなどして、廃棄物に対する意識向上に役立てている。

市ではこの取組を通じ、ごみ排出抑制や分別回収の徹底などさらなる環境行政の推進につなげていきたい考え。



池田市

- 池田市は、「池田学」講座を開設し、「池田学」検定を実施する。

これは、市立歴史民俗資料館のスタッフらが講師を務め、講座の内容に沿った検定試験を実施し、得点に応じて「学位」を与えるもの。

タクシーの運転手が受講し、最高位の学位を取得すれば、「観光タクシー」として認定する。

「観光タクシー」が観光客を乗せて市内を巡る場合、公共施設有料駐車場の駐車料金や五月山ドライブウエーの通行料を免除する、といった優遇措置を与える方針。

市ではこの取組を通じ、周遊しやすい環境を整え、観光客の増加につなげたい考え。



泉大津市

- 泉大津市は、「蓄光式の避難誘導標識」を避難所の近くに設置した。

これは、泉大津商工会議所が、創立60周年記念

事業として市に寄贈したものの。

表面には太陽光などに含まれる紫外線を吸収する蓄光材が施されており、矢印や避難者のイラスト、文字が発光している。

市ではこの取組を通じ、地域の防災意識を高めたい考え。



大阪狭山市

- 大阪狭山市に、働く女性の奉仕団体「国際ソロブチミスト大阪一南陵」から、ミニバイクが寄贈された。

同車は、屋根付き仕様になっており、青色回転灯とスピーカーを備え、後部のトランクには救護セットや防犯地図を収納することができる。

市では、同車を防犯活動団体に貸与し、地域の見回り活動に活用するなど、子どもの安全と安心と犯罪のない明るいまちづくりにつなげていきたい考え。

全国の市町村の動き



宮城県仙台市

- 仙台市では、市役所本庁舎地下1階にコンビニエンスストア「ローソン」が開店した。

同市ではこれまで、市職員の互助団体が売店を設置していたが、互助団体の廃止に伴い、市が事業者を公募した。

公用で買い物する場合に、資金前渡事務を簡略化できるよう、後払いできる仕組みを導入している。これは、ローソンとしては全国初の取組。

また、市役所内の食堂と競合しないよう、食堂営業中の午前11時から午後3時は弁当の販売を制限してもらっている。



埼玉県熊谷市

- 熊谷市は、「マイうちわ運動」を始めた。
同市は夏の暑さが厳しいことで知られているが、その暑さを逆手に取って市の活性化につなげようと、「あついぞ！熊谷」キャンペーンを実施している。
市内在住の俳人金子兜太さんの「俳句うちわ」と、キャンペーンのシンボルキャラクターの「あつべえ」が描かれた「あついぞ！熊谷 温暖化防止チームマイナス6%うちわ」の2種類を製作した。
市ではこの取組を通じ、地球温暖化防止を呼びかけるとともに、市をアピールしたい考え。



あついぞ！熊谷 ©熊谷市



長崎県東彼杵町

- 東彼杵町は、職員が茶葉のキャラクター「茶子ちゃん」のマーク入りポロシャツを着用して勤務する取組を始めた。
これは、町の特産品である「そのぎ茶」の消費拡大とクールビズ効果等を目的としたもの。
町内にある道の駅でそのぎ茶のPR策を募集したところ、アイデアが寄せられた。キャラクターをデザインしたのは町の小学生。
町では、クールビズ期間終了後、同じキャラクターを使った長袖シャツの作成も検討している。



広島県庄原市

- 庄原市は、子どもの結婚を望む親同士がお見合いをする「独身者をもつ親の情報交換会」の開催の準備を進めている。
これまで、結婚を希望する独身者に出会いの場を提供する催しを行ってきたが、子どもの結婚を心配する親からの相談が増加してきた。
市では、同じ思いを持つ親同士を引き合わせることも少子化対策の方策の一つと考えて企画した。